



法文学部と日鉄テクノロジー株式会 社連携研究協定を締結

法文学部は、日鉄テクノロジー株式会社と産学連携研究協定を締結し、12月6日に記者会見を行いました。本協定は、法文学部が重点研究領域とする考古学と、国内トップクラスの金属分析技術を持つ日鉄テクノロジーの協力により、青銅器・青銅器文化・金工技術研究の国際的拠点形成を目指すものです。考古学と分析化学を融合し、青銅器生産の実態解明に取り組めます。

日鉄テクノロジーは、青銅器の化学分析や材料評価を実施し、客観的データに基づく研究の深化に貢献します。記者会見では、日鉄テクノロジーの江藤学常務執行役員が「当社の技術が学術研究に寄与できることを嬉しく思う」と発言。また、浅田健太郎法文学部長は「文理融合によって、新しい成果が得られることを期待する」と意気込みを語りました。



法文学部では、岩本崇准教授をプロジェクトリーダーに、平郡達哉准教授、清水邦彦講師、坂川幸祐講師が共同研究に参加。日本列島の弥生・古墳時代の青銅器生産を解明し、東アジアにおける位置付けを明らかにすることを目指します。さらに研究の強化のため、弥生時代の銅鐸研究の難波洋三氏（奈良文化財研究所 客員研究員）、中国古代鏡研究の岡村秀典氏（黒川古文化研究所 所長）を客員教授として招聘しました。

法文学部では、岩本崇准教授をプロジェクトリーダーに、平郡達哉准教授、清水邦彦講師、坂川幸祐講師が共同研究に参加。日本列島の弥生・古墳時代の青銅器生産を解明し、東アジアにおける位置付けを明らかにすることを目指します。さらに研究の強化のため、弥生時代の銅鐸研究の難波洋三氏（奈良文化財研究所 客員研究員）、中国古代鏡研究の岡村秀典氏（黒川古文化研究所 所長）を客員教授として招聘しました。

藤田・吉田研究室がSEMICON アカデミアAward2024で最優秀賞を受賞

自然科学研究科の藤田恭久教授、吉田俊幸准教授の研究室が、世界最大級の半導体国際展示会「SEMICON Japan 2024」のアカデミアAward2024において「最優秀賞」と「SUMCO賞」を受賞しました。



この賞は、半導体産業の未来を担う優れた研究を支援する目的で2022年度に創設され、革新性や市場性、ネットワーク構築力、プレゼンテーション力、化亜鉛薄膜ナノ粒子による破壊的イノベーションと社会実装を発表。塗布型LEDや半導体技術の抗がん剤応用、大学発ベンチャーによる社会実装、国際的な人材育成の取り組みが高く評価されました。



次世代育成などの観点から審査されます。書類選考を経て、8研究室が選ばれ、本研究室は地方大学で唯一2次審査へ進出しました。展示会ステージでは、藤田教授と大学院生の川合悠介さん、川島佑斗さん、AnikaIslamさんが「酸化亜鉛薄膜ナノ粒子による破壊的イノベーションと社会実装」を発表。塗布型LEDや半導体技術の抗がん剤応用、大学発ベンチャーによる社会実装、国際的な人材育成の取り組みが高く評価されました。

受賞報告会は2025年1月7日に松江キャンパスで開催され、藤田教授は「技術の革新性と人材育成が評価された」と報告。大谷浩学長は「世界的に注目される成果であり、さらなる発展を期待したい」と祝福しました。また、伊藤文彦自然科学研究科長は「藤田研究室は多分野と連携し、新技術を社会実装するモデルケース」と高く評価しました。報告会では研究室メンバーも喜びを共有しました。

加藤大雅さんが今春の 「三十三間堂大の全国大会」で優勝

京都市の三十三間堂で毎年新春に開催される「三十三間堂大の全国大会」新成人男子の部にて、教育学部2年（当時）で弓道部に所属する加藤大雅さんが見事優勝を果たしました。江戸時代に行われた「通し矢」にちなんで行われるこの大会には、毎年弓術に優れた新成人が全国から集まり、今回も男子の部には724名の参加がありました。加藤さんは見事その



頂点となりました。「日頃から支えてくれる先生方や友人への感謝を込めて引きたい」と臨んだ舞台。普段とは違う60メートルという的までの距離や、大会の早い展開に戸惑いながらも決勝の舞台を勝ち抜き「成長の証を示すことができて嬉しい」と語りました。

輝かしい成績を裏付けるのは、コツコツ積み上げた日々の鍛錬。週4日の全体練習はもちろん、僅かな隙間時間に1射でも2射でも引こうと、毎日練習場へ足を運んで重ねた個人練習が、短時間で集中を求められる今回の大会に活かされたそうです。

将来は教員を目指し、日々勉強に励む加藤さん。一時期は弓が引けなくなるほどのイップスに悩まれた時期もあったといいます。が、「そういう苦しい経験があるからこそ、失敗したり悩んだりしている子どもたちに寄り添える教員になれる」と前向きに捉えています。将来的には弓道の指導にも携わり、「時間を犠牲に指導してくださった恩師をはじめ、地元へ恩返しをしていけたら」と、将来に向けて努力を続ける加藤さんの今後の活躍に期待です。

中国四国合同産業 衛生学会で 優秀演題賞を受賞

2024年11月23・24日に岡山大学鹿田キャンパスで開催された第68回中国四国合同産業衛生学会において、人間社会科学部健康・行動科学コース1年の中村優斗さん（指導教員：山崎雅之教授）が口頭発表を行い、優秀演題賞を受賞しました。

中村さんは、遺伝子多型と生活習慣に関する研究を進めており、今大会では「糖代謝を中心としたメタボリックシンドロームへのSEC16B遺伝子の影響」について発表しました。



「学生と共に創る！大田市 観光プランディスカッション」 を開催

12月14日、島根県立男女共同参画センターあすてらすで、特別副専攻「観光実践」の成果報告会が開催されました。受講生は、日本遺産「石見の火山が伝える悠久の歴史」をテーマに、8月のフィールドワークを基に観光振興のアイデアを発表。「大田市観光プランディスカッション」では、観光関係者や島根県立大学の学生、またたび講座の受講生と共に、地域経済活性化について議論しました。発表内容は『島根観光百科事典』に収録予定で、実現に向けた意見交換も実施。受講生からは、地域理解が深まり、観光への関心が高まったとの感想が寄せられました。

